

1. 学校評価総括

| | | |
|-----------------|---|---|
| 建学の理念 | 「心身ともに健康で、使命感を持つ、誠実な人間を育成する」 | |
| 教育目標 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 明朗で知性溢れる人の育成 2. 不屈の精神をもって、使命を全うする人の育成 3. 自己を確立しつつ、社会性豊かな人の育成 4. この世に生をうけた幸福を知る人の育成 | |
| これまでの成果と課題 | <p>新型コロナウイルス感染症の影響もあったが、前年度よりも多くの行事を日程調整や実施方法の工夫をすることで、生徒の協力も得ながら実施することができた。また、学校としては、行事だけでなく日常の学校生活でも感染症のクラスターを発生させないために、感染症予防対策を徹底した。教員による日々の校内の消毒、昼食時の黙食の励行、うがい・手洗いの徹底、三密を避ける行動を指導した。授業については、Teamsを活用したオンライン授業を行うこともあったが、予定通りの教育課程を修了することができた。宿泊行事についても、中学1年、2年の林間・臨海学校、中学3年の研修旅行、高校2年の修学旅行は、感染症予防策を講じながら実施することができた。また、文化発表会や合唱コンクールは、中学部と高等部を分ける2部制で行い、入場者を制限することで実施でき、陸上競技大会も中学部と高等部を分けて、プログラムを編成し直すことで実施することができた。行事の実施については保護者の方のご理解とご協力があったことで実現できたことであり、改めて感謝申し上げるところである。また、コロナ禍でグループ活動が減ったことから、人間関係の構築に苦労している生徒も見られた。校外では生徒の列車マナーについてご意見をいただくこともあり、6年間通い続ける生徒の人間教育をする学園として、継続して取り組むべき課題であり、生徒が安心して学園生活を送ることができるよう教育実践をしなければいけない。</p> | |
| | 具体的目標 | 総合評価 |
| 国際人を育てる教育 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 留学制度の充実 2. 進路指導の充実 3. 学力をつける授業の充実 4. 国際交流制度の充実 5. 卒業生・在校生の満足度向上 6. 施設・設備の充実 | <p>依然として新型コロナウイルス感染症の影響があったものの、従来通りの学園生活に近づけていけるように、学園として教育活動の実施方法等を検討し努力を重ねた。中学部での宿泊行事はすべて実施することができ、少しずつではあるが、コロナ禍以前の学校の形に近づきつつあるように感じられた。集団行動を通して培われるべき他者への配慮や、互いに協力し合いながら課題に取り組む協調性、リーダーシップについては、学びがまだ深まっていない部分もあるが、少しずつ改善されてきている。何よりも行事を楽しむ子どもたちの笑顔を見る機会が従前のように増えてきていることが学園として喜ばしい。関係各所と協力をしながら、以前と同様の形式で各行事が実施できるように検討を重ねている。</p> |
| 入学志願者・入学者の安定確保 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 六年一貫教育の充実のための内部進学生支援の充実 2. 外部児童・生徒募集の充実 | <p>学園では今後ICT教育に力を注ぐべく、教員研修の充実や新たな企業との提携を模索しながら、体制を整えている。令和7年度から大学入学共通テストの科目となる「情報」の学習への足掛かりとするため、ICT教育をさらに促進していきたい。高等部では授業の中でGCP(グローバル探究プログラム)を実施し、子どもたちが自ら課題を見つけ、どのように解決していくかを模索する機会を作ることができた。また、シンガポールの企業とオンラインで課題解決型の企画を実施することもできた。学業面では、低学年からハイレベルな内容に興味を持つ生徒も多い一方で、基礎基本の復習が必要な生徒も多いため、ICTを用いた個別学習のしくみを取り入れた。次年度以降、学校行事を安全に再開すること、生徒の社会性の醸成に取り組むこと、学業面での二極化現象に対応することを課題としていく。また、手段としてICTを活用することも含めて、教員の労働時間の削減と研修の充実にも取り組みたい。</p> |
| 教育の意識改革・行動改革の実施 | <ol style="list-style-type: none"> 1. 教科会議の充実 2. 教員組織の改革 3. 学校評価の導入 4. 教員評価制度の導入と研修の充実 | <p>学園では今後ICT教育に力を注ぐべく、教員研修の充実や新たな企業との提携を模索しながら、体制を整えている。令和7年度から大学入学共通テストの科目となる「情報」の学習への足掛かりとするため、ICT教育をさらに促進していきたい。高等部では授業の中でGCP(グローバル探究プログラム)を実施し、子どもたちが自ら課題を見つけ、どのように解決していくかを模索する機会を作ることができた。また、シンガポールの企業とオンラインで課題解決型の企画を実施することもできた。学業面では、低学年からハイレベルな内容に興味を持つ生徒も多い一方で、基礎基本の復習が必要な生徒も多いため、ICTを用いた個別学習のしくみを取り入れた。次年度以降、学校行事を安全に再開すること、生徒の社会性の醸成に取り組むこと、学業面での二極化現象に対応することを課題としていく。また、手段としてICTを活用することも含めて、教員の労働時間の削減と研修の充実にも取り組みたい。</p> |